

Namaste

# お釈迦様の ほほえみ



時宗布教伝道研究所員 小田 義宗

さて、今回は仏跡紹介の本筋から少し離れ、インドを旅するにあたっての筆者からのアドバイスを書いてみたいと思います。

この度のようなお釈迦様の仏跡参拝(インド北部)の場合、夏期は日本人に過酷な季節ですのでお勧めできません。私が行った二月ごろがベストシーズンのようですが、服装は下段写真のような感じです。

しかし寒暖差が激しいため、タオルケットのような羽織(はお)れて

収納できる衣類や、意外にも使い捨てカイロがあると便利でした。そしてインドでは衛生面での紙類がまだ貴重品ですので、ティッシュやウェットティッシュを旅行鞆(かばん)の空いた所に、とにかくいっぱい詰めて持っていたいところですよ。

また停電がよくありますので、持ち歩ける小さな懐中電灯があると便利でした。

次にバスの中のことですが、舗装路でも日本のように真っ平らな道ではありませんので揺れ



がすごく、大きなクッション等があるのととても助かります。ちなみにその揺れのため、資料やガイドブックは車中ではまったく読めませんでした。そしてここまで紹介した物は、旅行の最

終日にインドの方に全部あげちゃいましょう。日本では安価でも、現地では高級品のためとても喜んでくれます。

さて、最後に一番重要な『食べ物』です。美味しいからといって現地の食事を食べ過ぎないように注意して下さい。インドの食事は、日本人にとって慣れるまでに少し時間が必要です。また、水は絶対に水道のものも飲まないで下さい。歯磨きでも水道水は厳禁です。インド旅行は、お腹を壊さなければ八割方は成功したも同然と言われます。その他事前の情報収集に念を入れて、楽しい仏跡ツアーを体験して下さい。

## ◆バイク

筆者はバイク好きで、世界のどこに行ってもバイクチェック

は怠(おぼ)りません。興味の無い方には申し訳ありませんが、インドのバイク事情はと云いますと、日本のような大型バイクが abundantly いる環境と違い、主に150cc車両がメインでその九十パーセント以上が日本車もしくは日本製エンジンです。

ちなみに下段写真の男性はヘルメットを着用していませんが、インドでは男性は着用義務があります(従ってこの写真の男性は違反です)。逆に女性はその義務がありません。ここで男尊女卑(おんそんじゆひ)だと思った方、違うのです。実はヘルメット着用を拒否したのは、何を隠そうインドの女性団体だそうです。どの国でも、実は女性の方が強いようです。なお二輪車は新車で十萬から二十万円で販売さ

れているようですが、買って運転しようとは思いませんでした。すり抜け・追越し等、もうマナーが滅茶苦茶で、旅行中にツアーバスが事故に合わなかったのが奇跡と思えるほどの道路事情でしたから…。

